

街道東城路・街並み通信

vol. 5

～街道東城路周辺地区 魅力ある街並みづくりと地域の活性化 ワークショップについて～

平成28年6月 発行：庄原市都市整備課

街道東城路周辺地区において、歴史的な街並みの魅力を更に高めるとともに、賑わいの創出や住みよさの向上を図るため、住民や関係団体等の皆さんを中心としたワークショップを行っています（平成27・28年度）。ワークショップでの意見・提案をもとに、庄原市として具体的な施策・事業を検討するとともに、地元住民・事業者等の皆さんによるまちづくりの取組を促進します。なお、**第5回ワークショップ**は5月19日（木）に開催しました。

今回は昨年度の議論等を踏まえながら、A・B班は街並みづくりのルール案と公共施設の整備、C・D班は観光交流・地域生活に関する取組などについて、積み残した課題や取組の具体化に関するアイデアを出し合い、内容を掘り下げました。

第5回ワークショップのプログラム等（要点）

～計画の全体構成とそれぞれの取組を整理・検討しよう（素案づくり）～

日時：平成28年5月19日（木）19:00～21:10 会場：庄原市役所東城支所

参加者：住民・関係団体等の皆さん9人、アドバイザー2人、広島県3人、庄原市役所11人
進行役4人、報道機関1人

はじめに

○あいさつ ○昨年度の振り返り・中間まとめ（計画の全体構成）の説明 ○今日の進め方

アイデア・取組などの確認・掘り下げ・方向づけ（班ごと）

A班・B班 『ルールづくり・施設整備班』

<街並み（景観）について>

○街並みづくりのルールなどの案（中間まとめ）の説明



- ルール案への追加・修正、確認
- 街並みづくりの支援の検討
- ルールを管理する仕組み（体制）、担い手（だれか）、内容の確認・検討

<公共施設整備について>

○公共施設の整備案（中間まとめ）の説明



- 公共施設ごとに確認・方向付け、積み残している点の確認・掘り下げ

C・D班 『観光交流・地域生活班』

<観光交流・地域生活について>

※C・D班を一緒にして協議

○目指す姿・活性化の基本的方向、プロジェクト、推進方策などの案（中間まとめ）の説明



- 目指す姿・プロジェクト・取組の内容などの確認・掘り下げ
- 全体的な構成などの確認・検討
- プロジェクト・取組の推進方策の検討
 - ・優先順位の検討
 - ・体制（担い手、グループ・組織）
 - ・取組方策（優先順位、支援など）



全体会

- 各班の発表、意見交換
- アドバイザーのコメント
- 次回について
- おわりのあいさつ



コンセプト(目指す姿・目標)

【東城の街並みの目指す姿】

東城の街並みの魅力を共有し、誇りを持って暮らすまち

【主として建築物等の街並み景観に関する目標】

『江戸・明治・大正・昭和の歴史的な建物が調和する東城の街並み』の魅力づくり



○目指す姿や目標については、概ね了承を得られました。

街並みづくりのルール案・助成制度・管理運営など

【街並みづくりのルール案】

- ・国道314号バイパスの整備と合わせた街並みづくりを考慮
- ・防災対応の瓦もある⇒耐震改修の補助とセットで瓦など改修を促進することも検討
- ・格子などの保存・修繕、可能な場合の復元・新設に取り組むことを明記

【助成制度】

- ・まずは管理運営等を行う地元組織への支援を行うと、理由付けもしやすいのではないかと
- ・建物所有者などが個々で使いやすい街並みづくり(建物の改修など)の支援制度は必要
- ・リフォーム補助金などの既存ルールに、今回のガイドラインに沿った物を対象に入れることが考えられる
- ・将来的には色々なメニューで使いやすくなるとよい
- ・木製灯籠やプランターなどの製作・修理体験のイベントを開催⇒コミュニティ活動としての助成を検討

【管理運営】

- ・地元(住民等)が中心となったルールを管理運営する組織は必要(地域活動団体、専門家グループ、外部の専門家・アドバイザーの参加など)
- ・現状でも住民への周知が不足している⇒情報の提供・共有化の取組
- ・昔の街並みの写真などの収集・写真展の開催、街並み・建物の振り返り(歴史)など

公共施設の整備

【道路の美装化】

- ・美装化する通りのコンセプトが必要(例えば、安心して歩ける・・・など)
- ・地区によって特色を出すことも
- ・ブロック敷きなどはデコボコになり、カートが押しにくくなる
- ・デザインは検討が必要だが、歩行者と車の空間を分けて明示することは必要
- ・現在のアスファルトの下にコンクリートがあり、その素材を活用することも(良い感じの雰囲気)
- ・コンクリート舗装の上にアスファルトを何度か重ねているので、道が高くなっている⇒高さ面での改善も
- ・街並みにあった色合いの洗い出し舗装の様なデザインに(赤など街並みと似合わない舗装の色にはしない)

【無電柱化】

- ・軒下配線は景観的に良くない⇒水路を活用(配管・配線)し、トランスは公共空間や空き家等へ設置
- ・三楽荘付近など、部分的に無電柱化することが現実的(全体的な無電柱化は難しい)
- ・最終的にどのような形を目指すのかが必要(昭和の時代は電線があるのが一般的)

【ポケットパークの整備・充実】

- ・三楽荘前ポケットパークは、吹きさらしで誰も座らないため移動可能な目隠し等が必要
- ・目隠しには移動式の格子(ルーバー状のつい立て)、プランター(木)も考えられる
- ・下本町ポケットパークに水路(せせらぎ)をつくる検討をしては
- ・下本町ポケットパークにも道路からの目隠しが必要

【公共建築物等の整備】

- ・下本町ポケットパークにあるトイレは、街並みと調和するよう外観などの修景が必要

【その他】

- ・公共施設の整備は、明快な目的・目標、地元の理解と協力、利用されることが前提
- ・水路の活用は水の確保が課題、また、部分的な範囲での検討(全体的な活用は難しい)
- ・水路活用には安全への配慮が必要
- ・国道314号整備に伴う法面整備は、街並み景観に合わせた配慮が必要
- ・東城川(成羽川)も景観に配慮した整備を要望
- ・河川沿いの桜並木は根でインターロッキングが浮いているなど、歩きやすい状況ではない⇒改善要望を

コンセプト
(目指す姿・目標)

【東城の街並みの目指す姿】
東城の街並みの魅力を共有し、誇りを持って暮らすまち
 【主として街並みを活かしたまちづくりに関する目標】
歴史に彩られ、住んで楽しく、訪れたいまちづくり

↓
 ○目指す姿や目標については、概ね了承を得られました。

プロジェクトの内容など(意見)

○平成 27 年度の 4 回のワークショップで出された C・D 班の意見を集約し、以下のまちづくりプロジェクトを設定しました。

1 東城路街並み景観継承プロジェクト

江戸・明治・大正・昭和の歴史のかつ多彩な建物を主体に形成されている東城路周辺の街並み景観を地域の貴重な資源として守り、活かしながら、魅力あるまちづくりを進めます。

2 東城路歴史・文化継承プロジェクト

東城路周辺の街並みの中で育まれてきた生業や歴史・文化、街なか資源などを住民が共有し、地域に誇りと愛着を持って楽しく暮らせるまちづくりを進めます。

3 東城路観光・交流促進プロジェクト

東城路周辺の街並み景観や歴史・文化資源を地域住民や来訪者と共有するとともに、来訪者へのおもてなしを充実させ、観光・交流の促進を通じて、賑わいのあるまちづくりを進めます。

4 東城路丸ごと体験・交流プロジェクト

東城路周辺の街並み、歴史・文化、食と産業などを学び、楽しむ多様な体験の場を来訪者に提供し、ふれ合い豊かな活力あるまちづくりを進めます。

5 誰にもやさしい環境づくりプロジェクト

道路の段差の解消などによる街のバリアフリー化、交流の場の確保などを通じて、誰もが東城路周辺の街並みを楽しみながら、安全で快適に暮らせるまちづくりを進めます。

6 多世代交流促進プロジェクト

東城路の街名街並みや歴史・文化を次世代に引き継ぐ活動など高齢者等の社会参加と多世代交流を促進し、誰もが、生き生きと活躍し、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

7 空き家活用プロジェクト

東城路周辺の空き家を住宅、起業の場、交流の場などとして有効に活用し、Uターンを促進するとともに、街並みの再生、新旧店舗等の共存等を通じて、多彩に輝くまちづくりを進めます。

8 まち起こし人材確保・連携プロジェクト

東城路周辺の街並みと歴史・文化を継承する取組を通じて、地域内外の若者や様々な人に参加、協力、連携を働きかけ、まち起こしの人材の集まる持続可能なまちづくりを進めます。

○8つのプロジェクトに含まれる合計 33 の取組に対して、重要だと思うことや、自分たちで動かすことが出来ると思う取組を検討した結果、9つの取組が取り上げられました。

- まち物語の発掘・継承・郷土愛の醸成
(連携する取組：面白い話のネタ帳編集・活用)
- 街なか資源のネットワーク化と活用
- 街のガイド・情報提供
- 観光地としてのネットワーク化
- 体験・交流イベントの企画・運営
(連携する取組：体感・交流イベントの推進体制づくり)
- 交流と賑わいを育む環境づくり
- 多世代交流
- 空き家の多様な(東城路らしい)活用
- まち起こし人材の確保



その他

- ・ワークショップで話し合った内容を、地域に持ち帰って説明したい
- ・体系的にまとめると同時に、住民が行動に動かしやすい計画書(概要版など)が必要

アドバイザーからのコメント

(松田智仁氏[広島市工業技術センター所長])

- 「計画あるところに支援あり」という原則から、街並みづくりのルールに従って家主等が補助申請する形、また、活動団体に対して実施計画に基づいて助成を行う形式もあります。さらに、視察した山口市の例「匠のまち創造支援補助金」に習い、大工や建具屋などが従来工法で工事を行う改修に助成されるといった制度も考えられます。助成制度は庄原市全域を対象としつつ、条件が合えば支援可能という形で、複数のメニューから使いやすいものを活用していくことが必要かと思います。
- 公共施設整備については、街道東城路の美装化などに集中しがちですが、寺院のある四角いコアや東城駅からのアプローチ道路についてもあり方を考えていくことが大切だと思います。
- 舗装材については、生活環境の面、来訪者の安全性確保も必要であるため、車と歩行者空間を区分する色分けは必要だと思います。また、例示されている工法以外にも、カラーコンクリートという工法も検討できるのではないかと思います。
- 国道314号沿いの法面については、ツタ類などの植物で法面を隠す修景方法もあるかと思います。
- 電線類の地中化を東城路全域で考えない場合でも、観光客の立場から見て、“売り”になる古民家前の写真スポットや絵になる街並み区間に限定した検討を進めるといった手法もあるかと思います。
- 下本町のポケットパークの修景については、大学生を対象とした市主催のコンペを行い、住民が審査員になるなど、話題づくりをしながら外部の人の力を使ったまちづくりを進めることも必要だと思います。



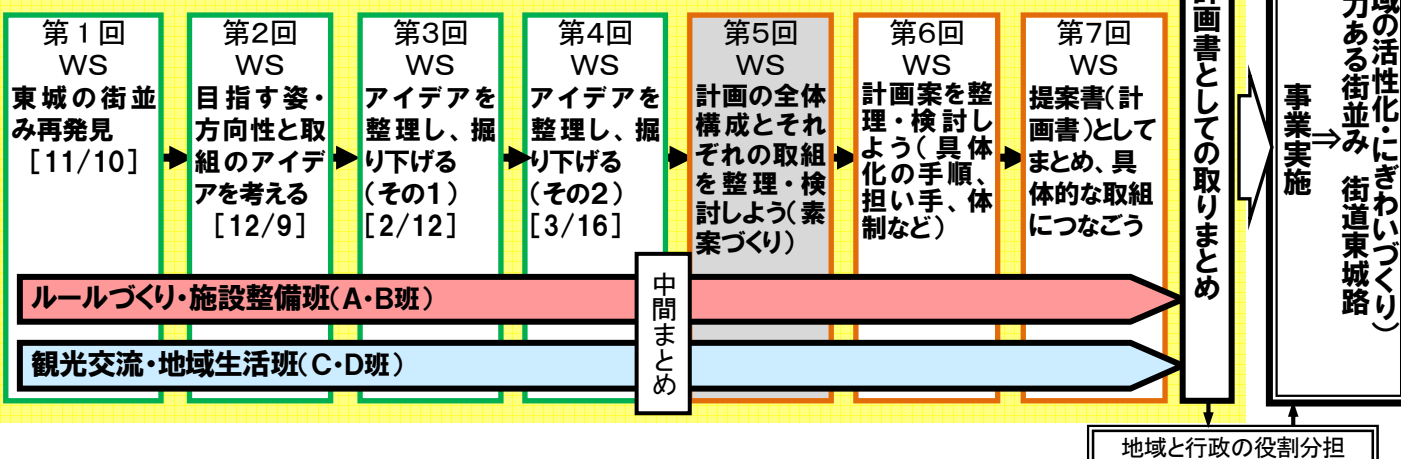
(福田由美子先生[広島工業大学教授])

- 昨年度出されたアイデアを拾い上げて8プロジェクトとそれを構成する33の取組になっていますが、ワークショップの成果としては絞るのではなく、数多くあっても良いかと思います。
- 取組内容を見ていく中で、似たような取組がでてきます。それらは、1つ1つ単独で考えるのではなく、1つの取組を進めていくと、ほかの取組と関連していて、実は別の取組も進んでいるという形になるかもしれません。
- 限られた人材で集中してやっていくには、掲げられた取組を同時並行的に捉え、1つを進めることで2度美味しい、3度美味しいくらいのやり方の方が上手く回っていくように思いました。
- すでにやっている取組や自分でもできる取組を踏まえて、次回、何から動かしていくかを考えましょう。



ワークショップの進め方(予定)

平成27年度4回、平成28年度3回、計7回の開催を予定
※ワークショップの進捗状況等によって、テーマ・内容を調整します。



問い合わせ・連絡先

〒727-8501 庄原市中本町一丁目10番1号
庄原市 環境建設部 都市整備課 都市整備係 担当：山田
電話：(0824) 73-1151 FAX：(0824) 73-1147
E-mail：toshi@city.shobara.lg.jp
～街並みづくりやまちづくりに関わるご意見なども、お寄せください～